

## 7. カーボンニュートラル（脱炭素）について

### (1) カーボンニュートラルの認知度

◇ 「言葉の意味も含めて知っている」が5割半ば

問25 あなたは、カーボンニュートラル（脱炭素）についてどの程度知っていますか。

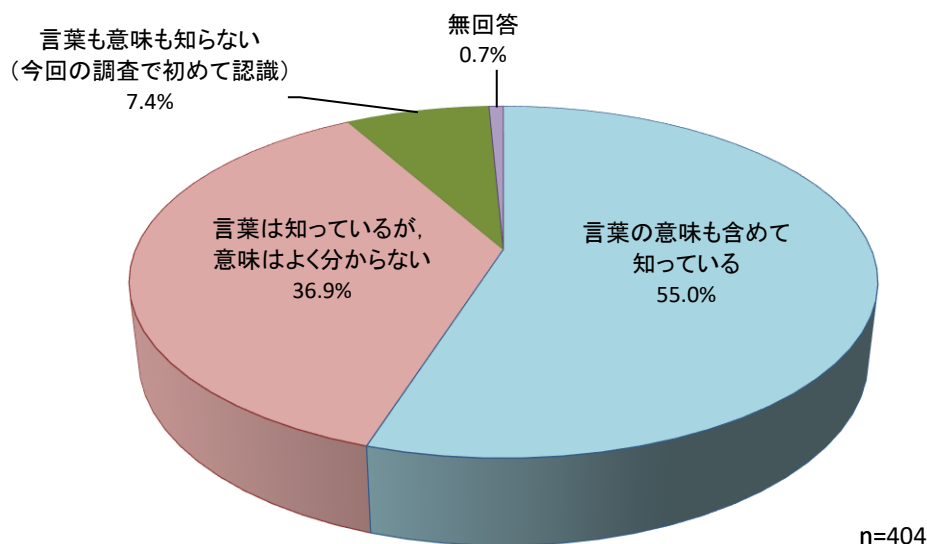
※ カーボンニュートラル（脱炭素）とは…

二酸化炭素等の温室効果ガスの「排出量」から、植林や森林管理等による「吸収量」を差し引いて、その合計を実質的にゼロにすること。 (○は1つ)

n=404

1	言葉の意味も含めて知っている	55.0%
2	言葉は知っているが、意味はよく分からない	36.9%
3	言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識）	7.4%
	（無回答）	0.7%

<図IV-7-1>全体



カーボンニュートラル（脱炭素）についてどの程度知っているかについては、「言葉の意味も含めて知っている」が55.0%で最も高く、次いで「言葉は知っているが、意味はよく分からない」が36.9%、「言葉も意味も知らない（今回の調査で初めて認識）」が7.4%と続いている。（図IV-7-1）

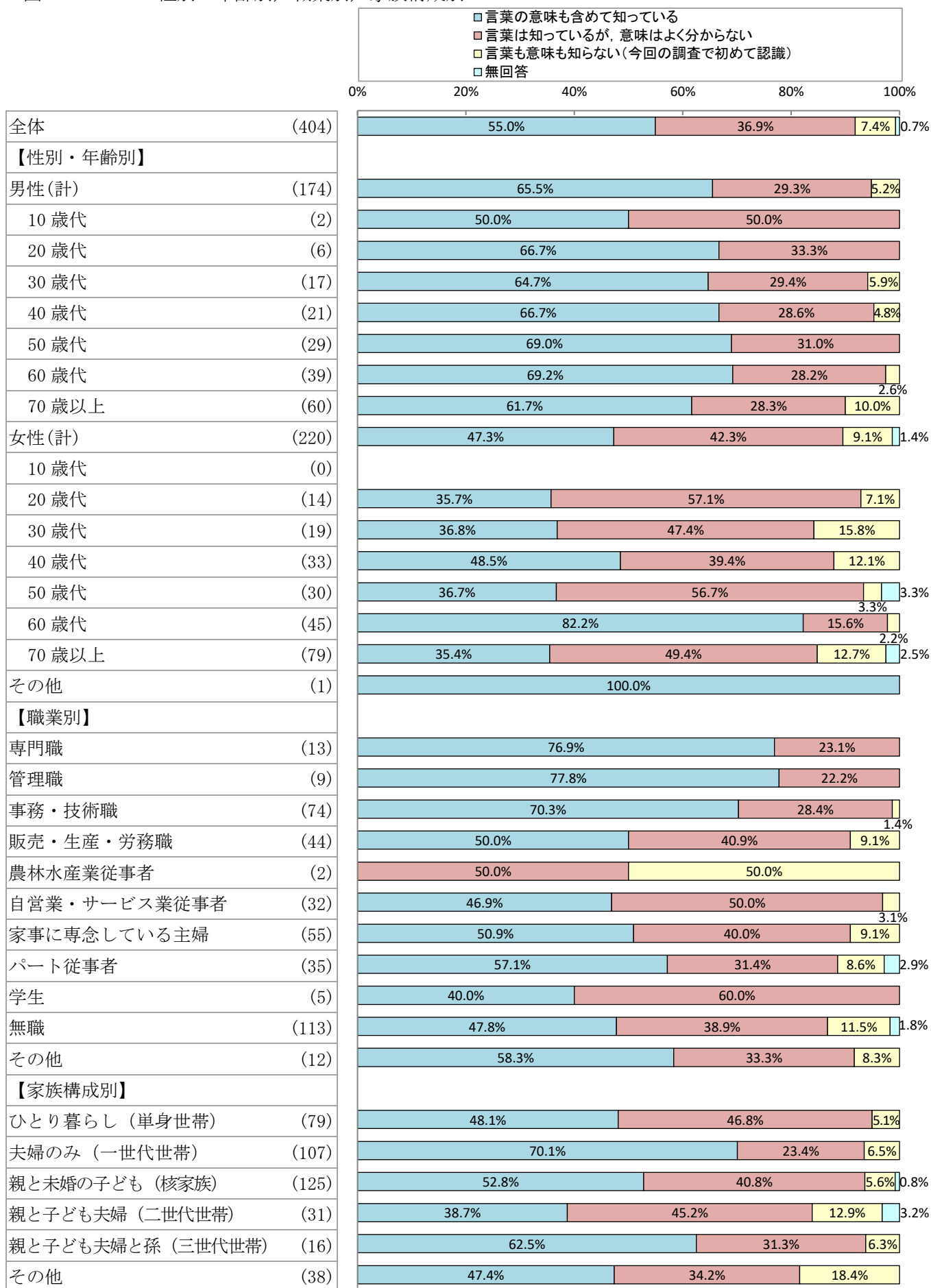
#### <参考>

性別・年齢別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<その他>を除くと、<女性/60歳代>が82.2%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が69.2%、<男性/50歳代>が69.0%と続いている。「言葉は知っているが、意味はよく分からない」は<女性/20歳代>が57.1%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が56.7%であった。（図IV-7-2）

職業別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<管理職>が77.8%で最も高く、次いで<専門職>が76.9%であった。「言葉は知っているが、意味はよく分からない」は<学生>が60.0%で最も高く、次いで<農林水産業従事者><自営業・サービス業従事者>がともに50.0%であった。（図IV-7-2）

家族構成別でみると、「言葉の意味も含めて知っている」は<夫婦のみ（一世代世帯）>が70.1%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫（三世代世帯）>が62.5%であった。「言葉は知っているが、意味はよく分からない」は<ひとり暮らし（単身世帯）>が46.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世代世帯）>が45.2%であった。（図IV-7-2）

<図IV-7-2>性別・年齢別／職業別／家族構成別

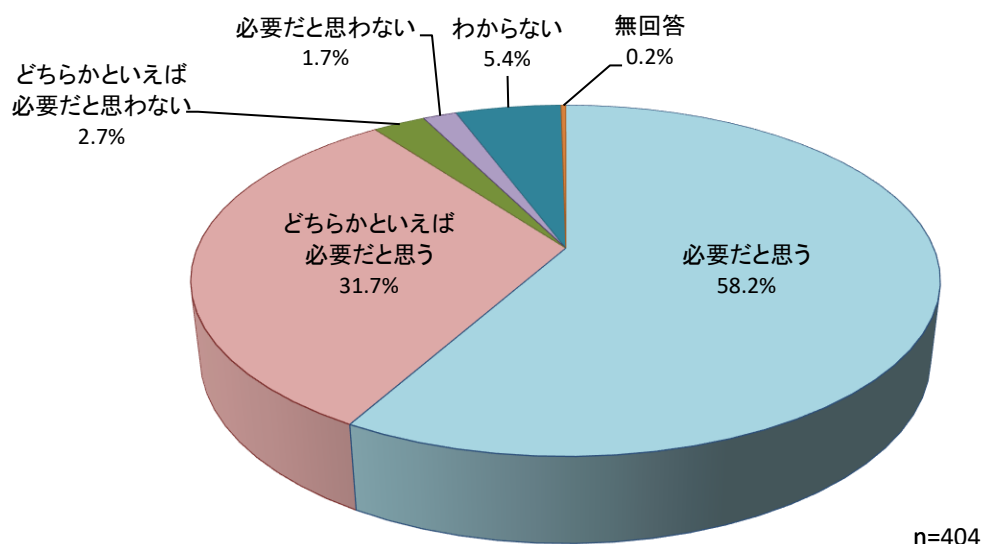


(2) カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか

◇ 「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた【必要だと思う(計)】が約9割

問 2 6	カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいくことは必要だと思いますか。宇都宮市は、2030年度市全体の温室効果ガス削減目標について、2013年度比50%削減を掲げています。	(○は1つ)
		n=404
1	必要だと思う	58.2%
2	どちらかといえば必要だと思う	31.7%
3	どちらかといえば必要だと思わない	2.7%
4	必要だと思わない	1.7%
5	わからない	5.4%
	(無回答)	0.2%

<図IV-7-3>全体



カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うかについては、「必要だと思う」が58.2%、「どちらかといえば必要だと思う」が31.7%で、これらを合わせた【必要だと思う(計)】は89.9%であった。一方、「必要だと思わない」が1.7%、「どちらかといえば必要だと思わない」が2.7%で、これらを合わせた【必要だと思わない(計)】は4.4%であった。(図IV-7-3)

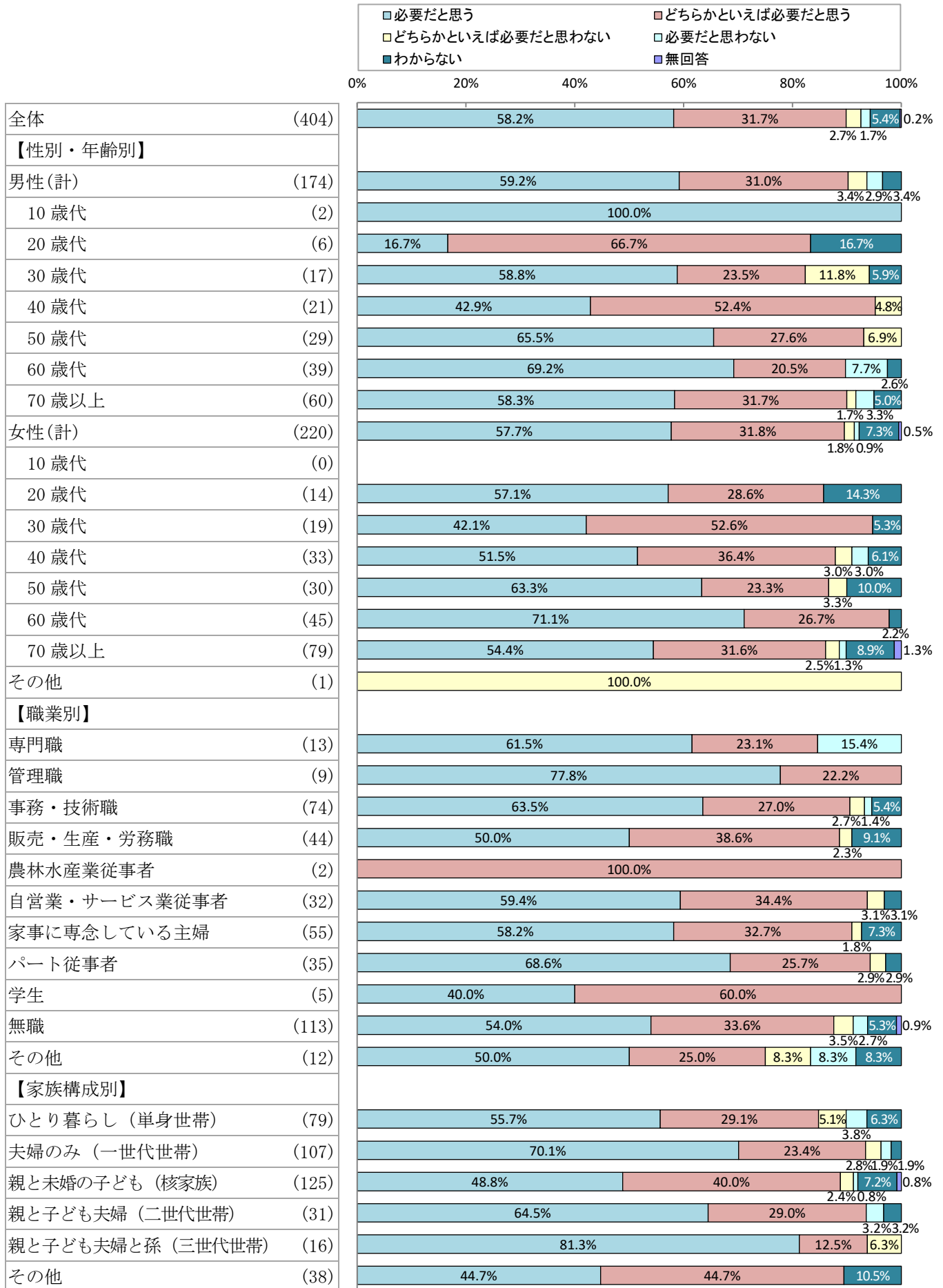
<参考>

性別・年齢別でみると、【必要だと思う(計)】は<男性/10歳代>が100.0%で最も高く、次いで<女性/60歳代>が97.8%であった。一方、【必要だと思わない(計)】は<その他>を除くと、<男性/30歳代>が11.8%で最も高く、次いで<男性/60歳代>が7.7%であった。(図IV-7-4)

職業別でみると、【必要だと思う(計)】は<管理職><農林水産業従事者><学生>が100.0%で最も高かった。一方、【必要だと思わない(計)】は<その他>を除くと、<専門職>が15.4%で最も高かった。(図IV-7-4)

家族構成別でみると、【必要だと思う(計)】は<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が93.8%で最も高く、<夫婦のみ(一世帯世帯)><親と子ども夫婦(二世帯世帯)>がともに93.5%であった。一方、【必要だと思わない(計)】は<ひとり暮らし(単身世帯)>が8.9%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦と孫(三世帯世帯)>が6.3%であった。(図IV-7-4)

<図IV-7-4>性別・年齢別／職業別／家族構成別



(3) カーボンニュートラルにつながる行動について

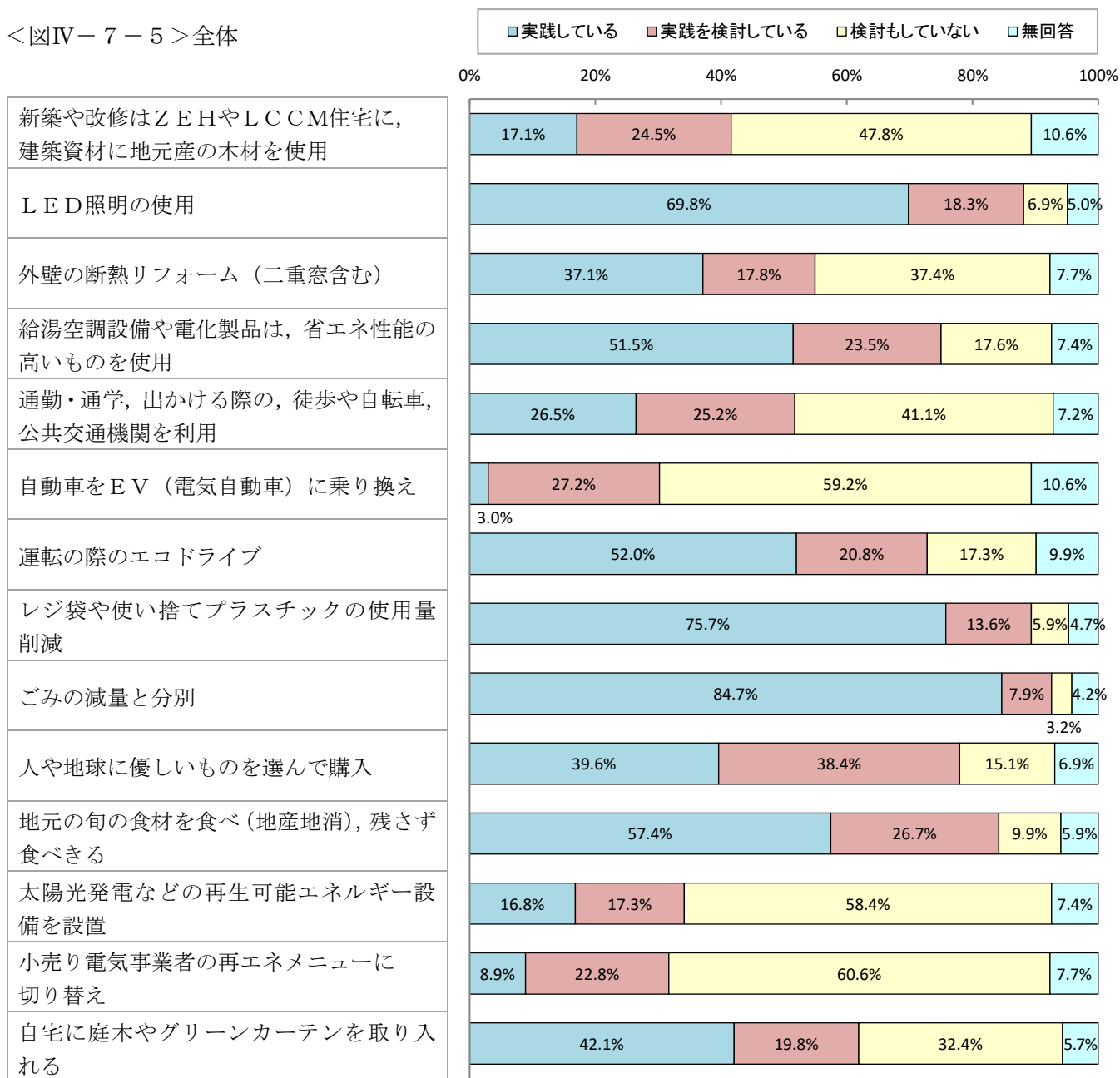
◇ 「実践している」は「ごみの減量と分別」が8割半ば

問27 以下のカーボンニュートラルにつながる各項目の行動について、「実践している」場合は1,「実践を検討している」場合は2,「検討もしていない」場合は3で答えてください。(〇は1つ)

n=404

項目	実践している	実践を検討している	検討もしていない	(無回答)	合計
1 新築や改修はZEH(※1)やLCCM住宅(※2)に、建築資材に地元産の木材を使用 ※1 ZEH:外皮の断熱性能を大幅に向上させるとともに、高効率な設備システムの導入により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギーを実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、年間の一次エネルギー消費量の収支がゼロとすることを目指した住宅 ※2 LCCM住宅:ライフ・サイクル・カーボン・マイナス住宅の略。建物を長寿命化するとともに、居住時だけでなく、住宅の建設から廃棄時に至るまでできるだけ省CO2に取り組み、ライフサイクルを通じてのCO2の収支をマイナスにする住宅	17.1%	24.5%	47.8%	10.6%	100.0%
2 LED照明の使用	69.8%	18.3%	6.9%	5.0%	100.0%
3 外壁の断熱リフォーム(二重窓含む)	37.1%	17.8%	37.4%	7.7%	100.0%
4 給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用	51.5%	23.5%	17.6%	7.4%	100.0%
5 通勤・通学、出かける際の、徒歩や自転車、公共交通機関を利用	26.5%	25.2%	41.1%	7.2%	100.0%
6 自動車をEV(電気自動車)に乗り換え	3.0%	27.2%	59.2%	10.6%	100.0%
7 運転の際のエコドライブ	52.0%	20.8%	17.3%	9.9%	100.0%
8 レジ袋や使い捨てプラスチックの使用量削減	75.7%	13.6%	5.9%	4.7%	100.0%
9 ごみの減量と分別	84.7%	7.9%	3.2%	4.2%	100.0%
10 人や地球に優しいものを選んで購入	39.6%	38.4%	15.1%	6.9%	100.0%
11 地元の旬の食材を食べ(地産地消)、残さず食べきる	57.4%	26.7%	9.9%	5.9%	100.0%
12 太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置	16.8%	17.3%	58.4%	7.4%	100.0%
13 小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え	8.9%	22.8%	60.6%	7.7%	100.0%
14 自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる	42.1%	19.8%	32.4%	5.7%	100.0%

<図IV-7-5>全体



n=404

カーボンニュートラルにつながる各項目の行動については、「実践している」は『ごみの減量と分別』が84.7%で最も高く、次いで『レジ袋や使い捨てプラスチックの使用量削減』が75.7%、『LED照明の使用』が69.8%と続いている。「検討もしていない」は『小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え』が60.6%で最も高く、次いで『自動車をEV（電気自動車）に乗り換え』が59.2%、『太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置』が58.4%と続いている。（図IV-7-5）

<参考>

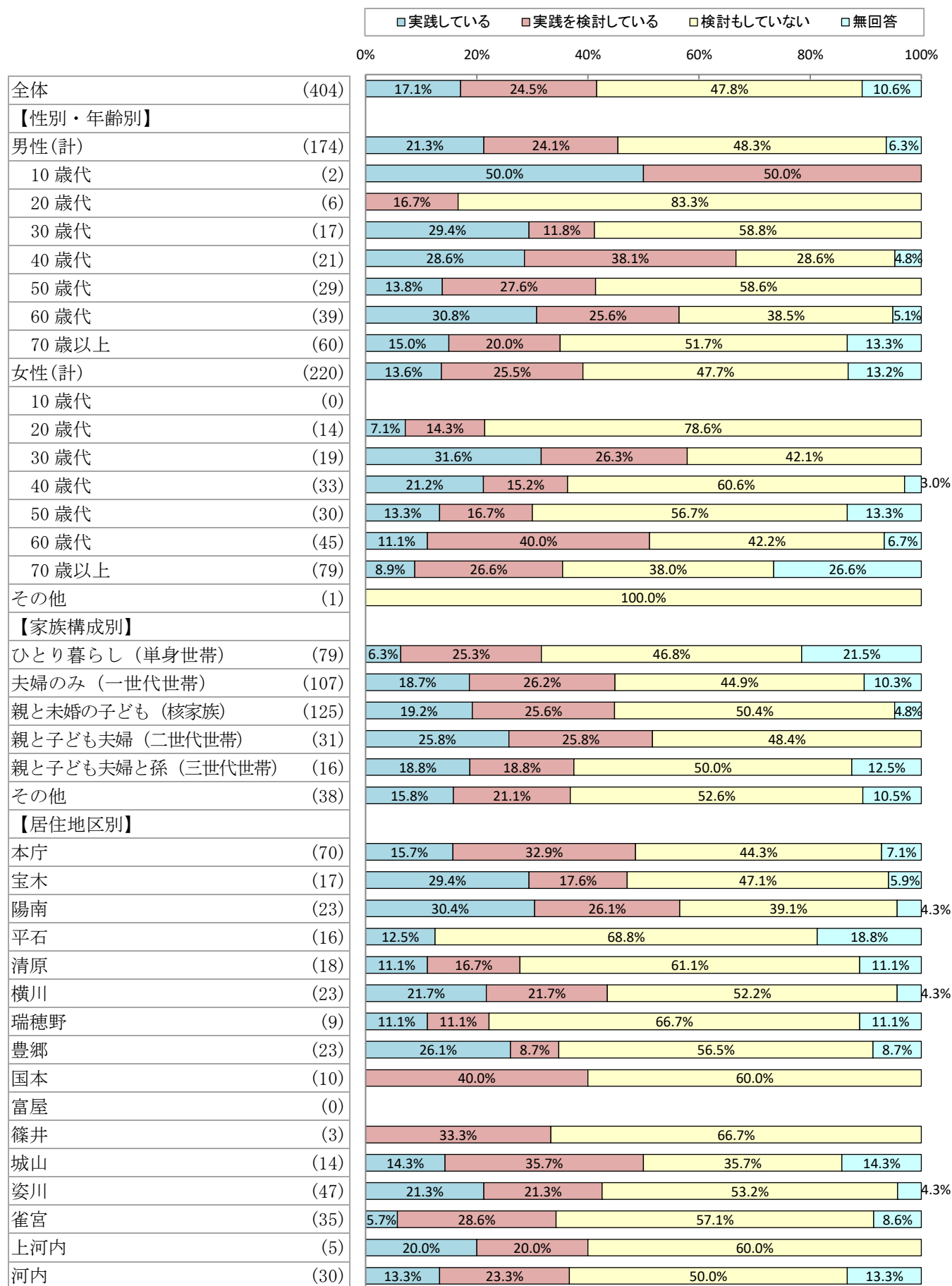
性別・年齢別でみると、『ごみの減量と分別』を「実践している」は、<男性/10歳代>が100.0%、<女性/40歳代>が93.9%であった。（図IV-7-14）

家族構成別でみると、『ごみの減量と分別』を「実践している」は、<親と子ども夫婦と孫（三世帯世帯）>が93.8%で最も高く、次いで<親と子ども夫婦（二世帯世帯）>が87.1%であった。（図IV-7-14）

居住地区別でみると、『ごみの減量と分別』を「実践している」は、<豊郷><国本><篠井>が100.0%、<城山>が92.9%であった。（図IV-7-14）

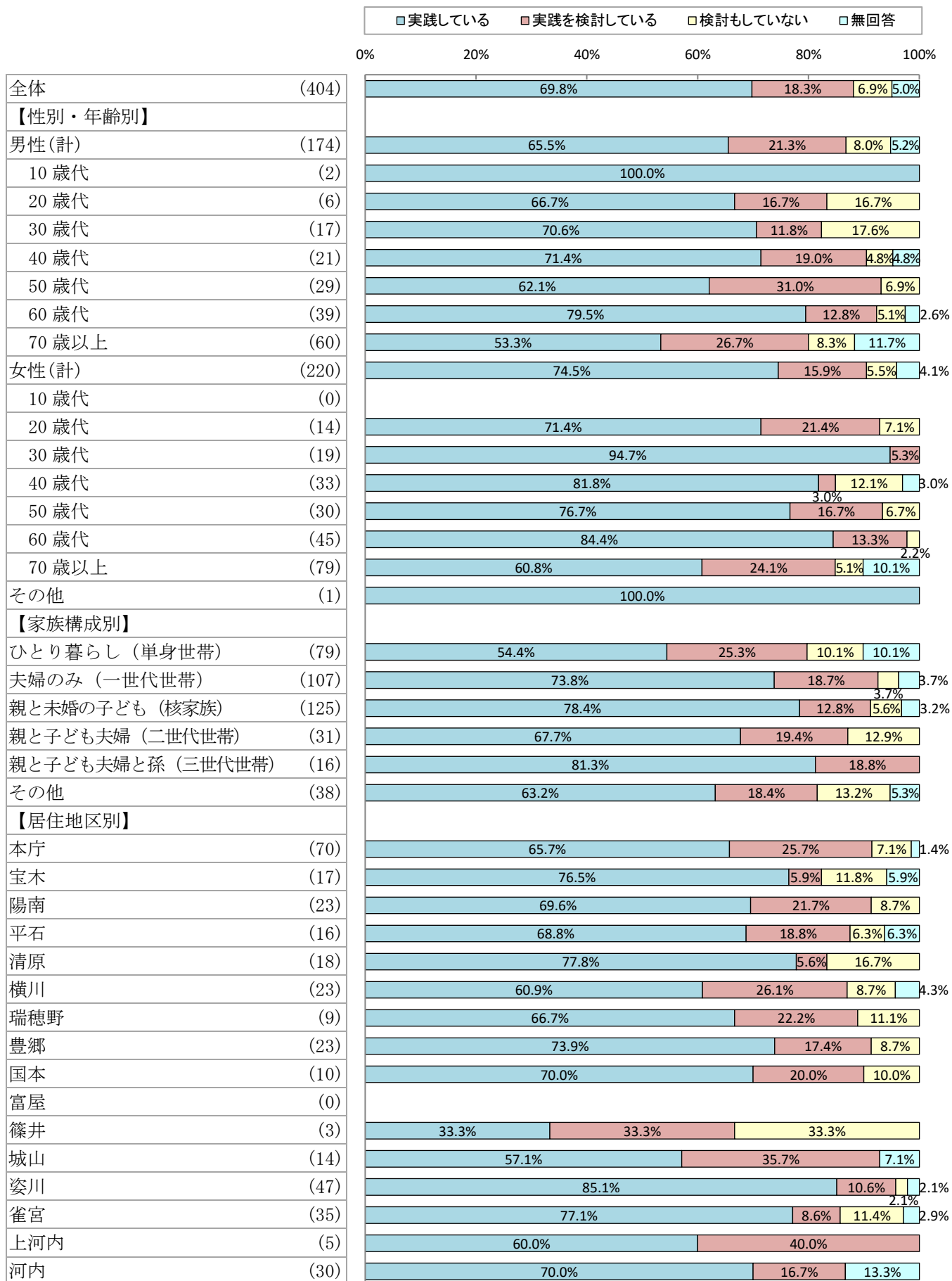
<図IV-7-6>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

①「新築や改修はZEHやLCCM住宅に、建築資材に地元産の木材を使用」



<図IV-7-7>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

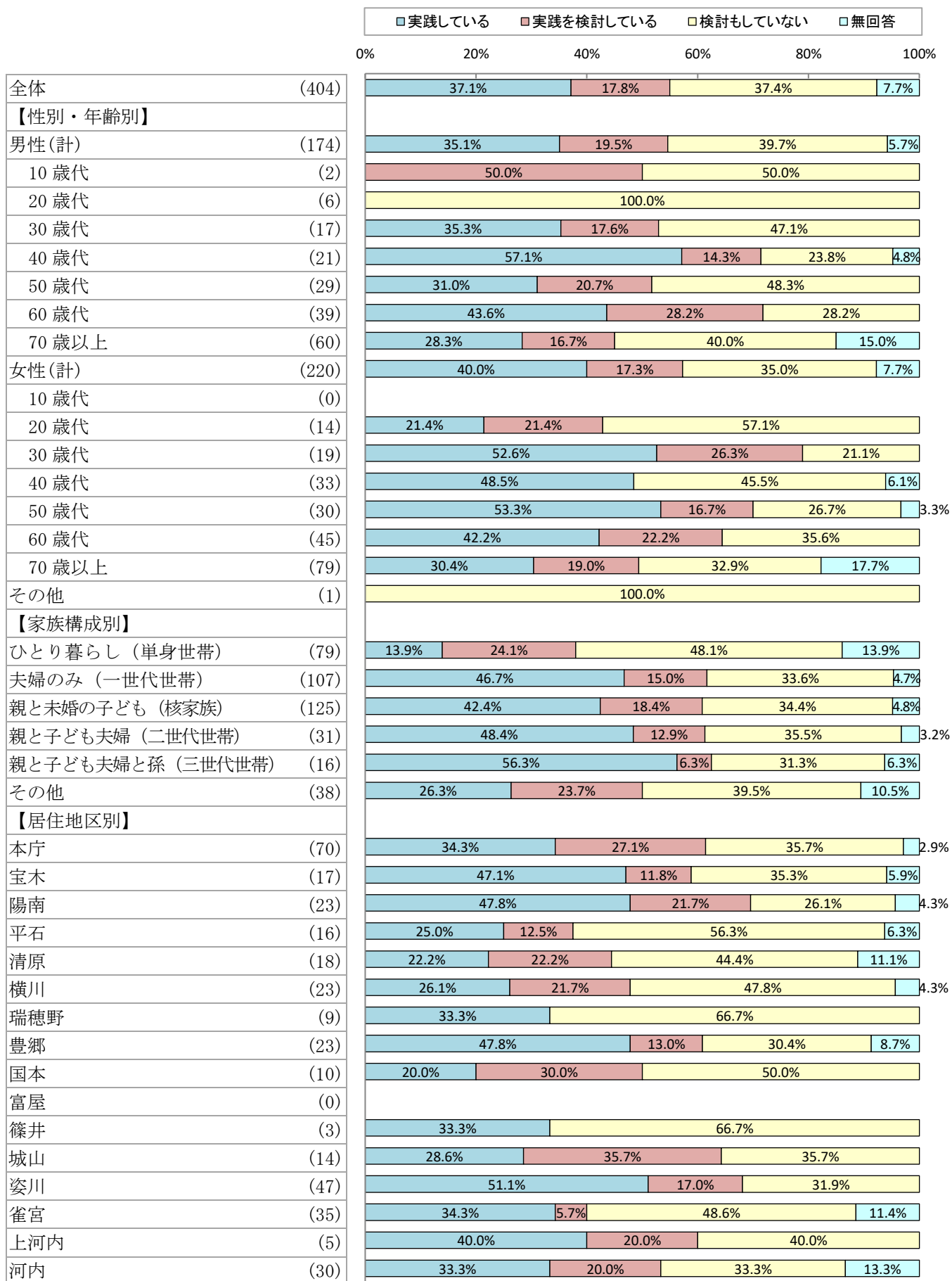
②「LED照明の使用」





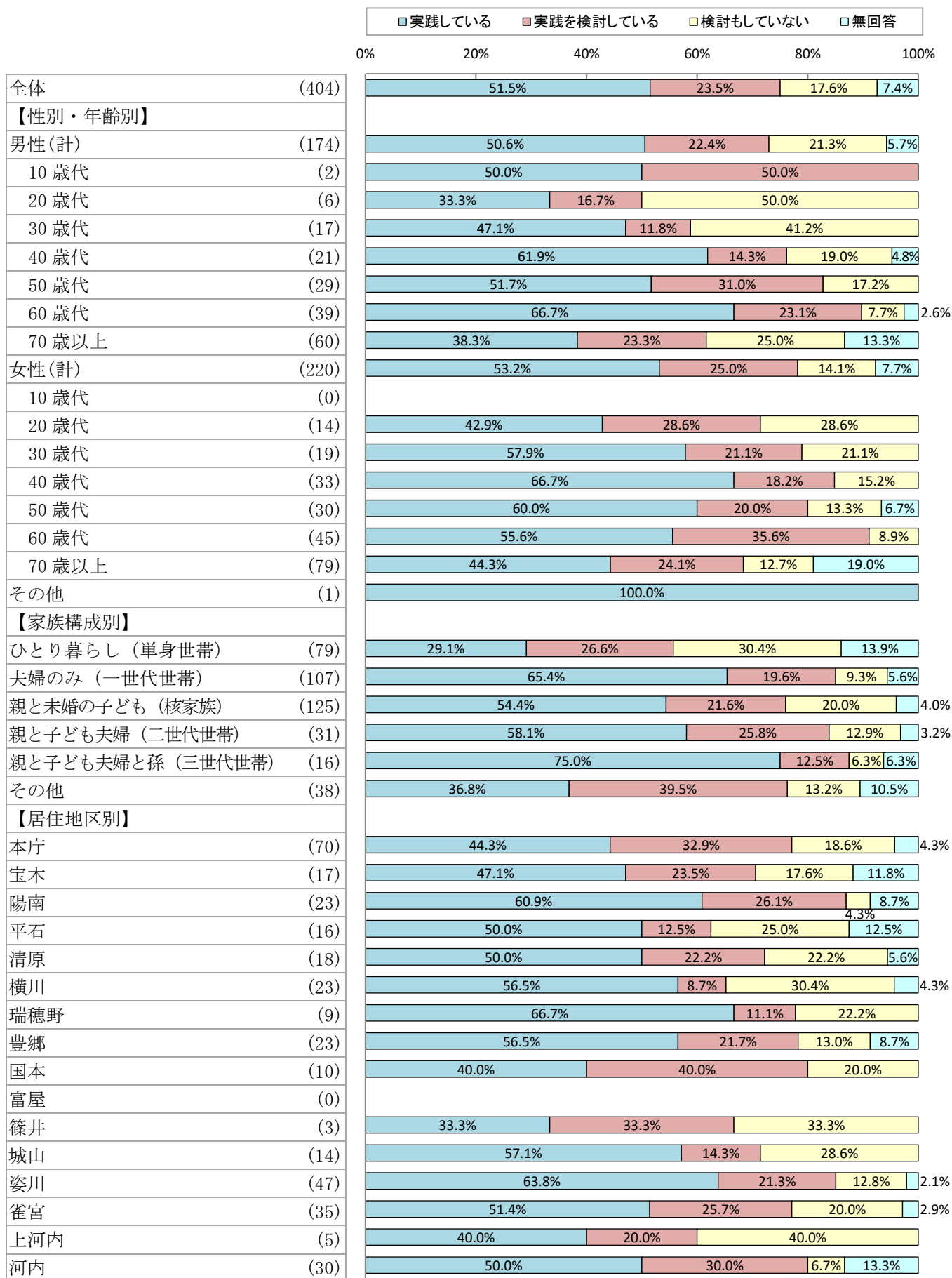
<図IV-7-8>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

③「外壁の断熱リフォーム（二重窓含む）」



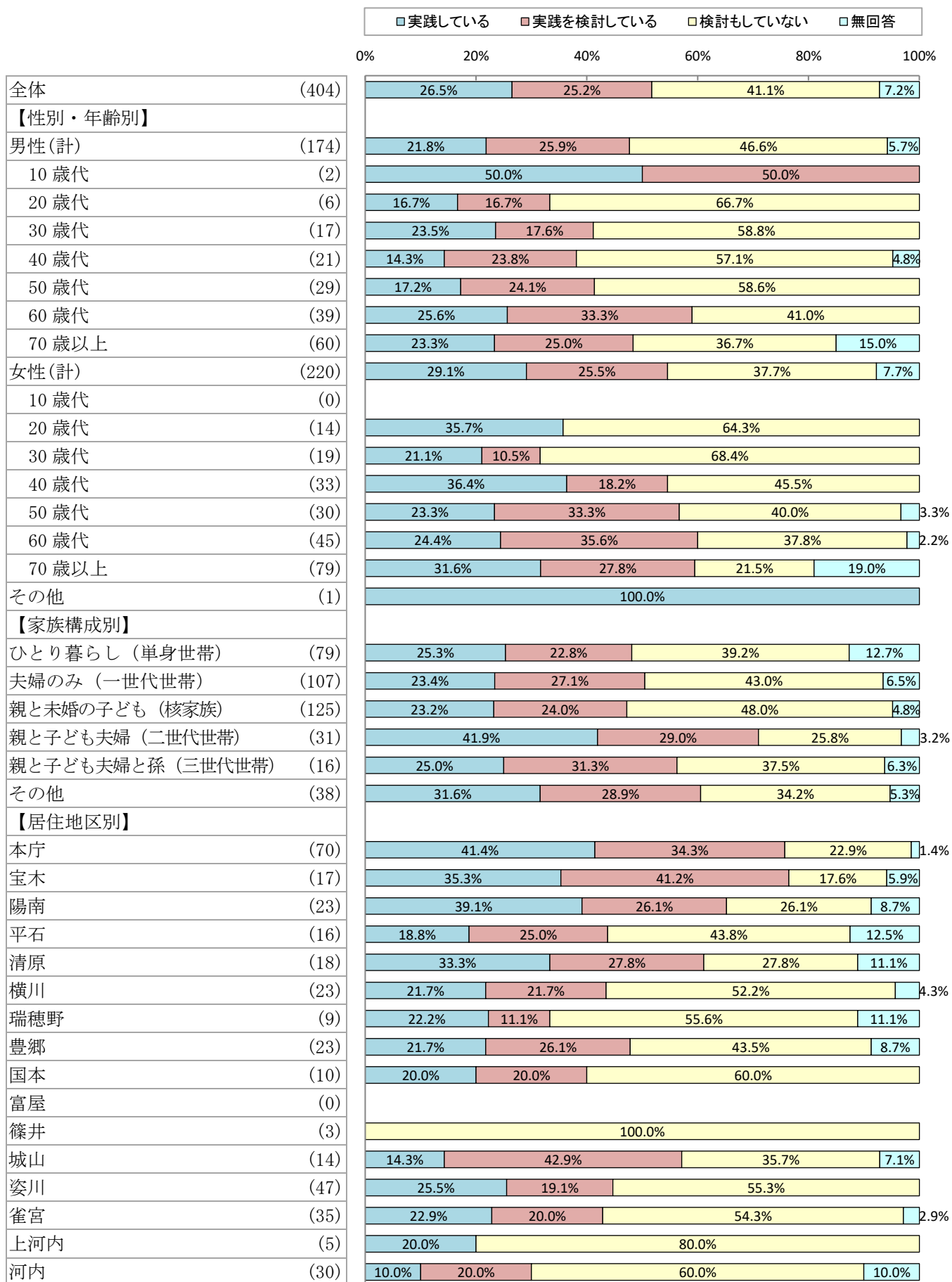
<図IV-7-9>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

④「給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用」



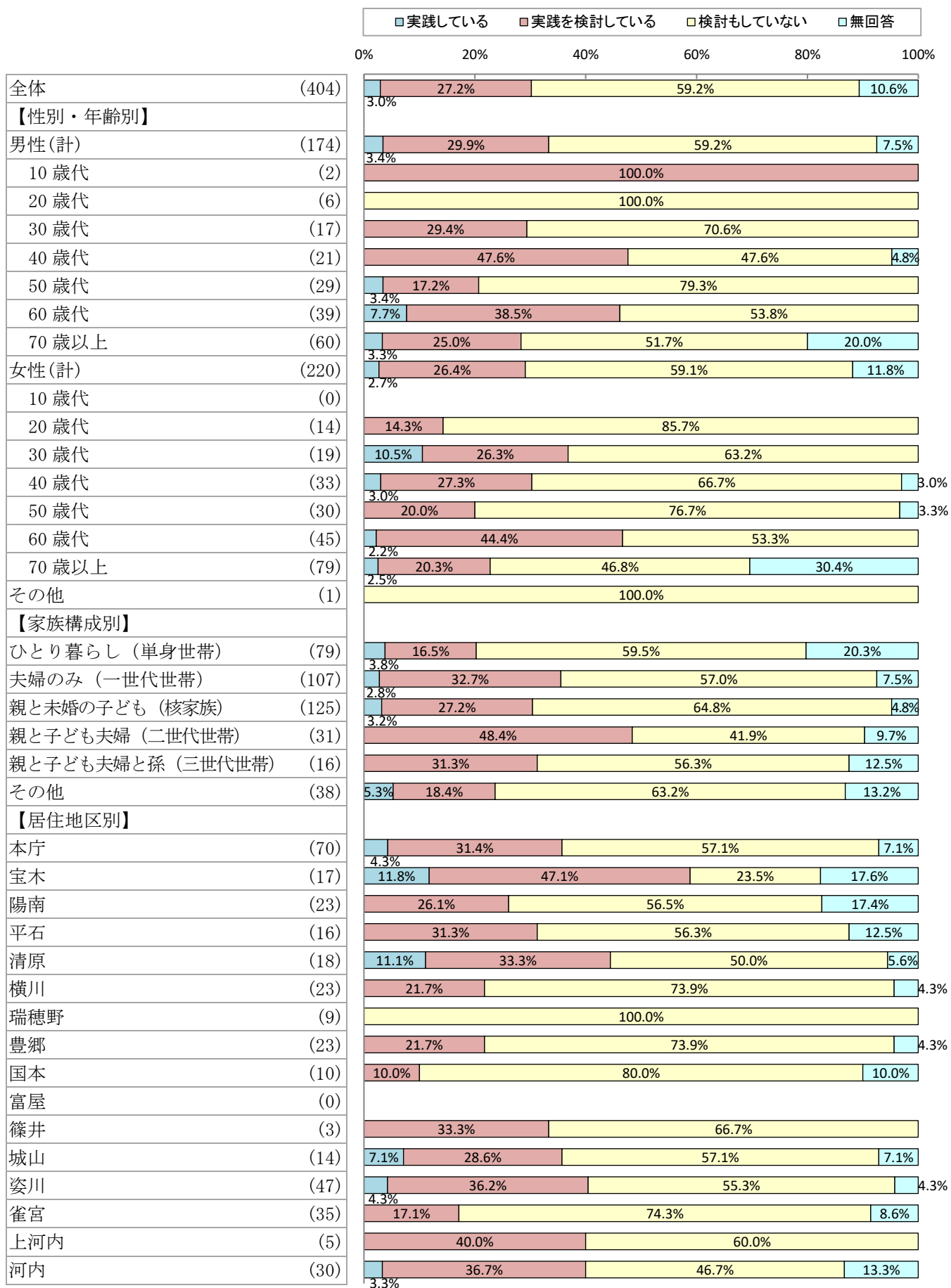
<図IV-7-10>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑤「通勤・通学，出かける際の，徒歩や自転車，公共交通機関を利用」



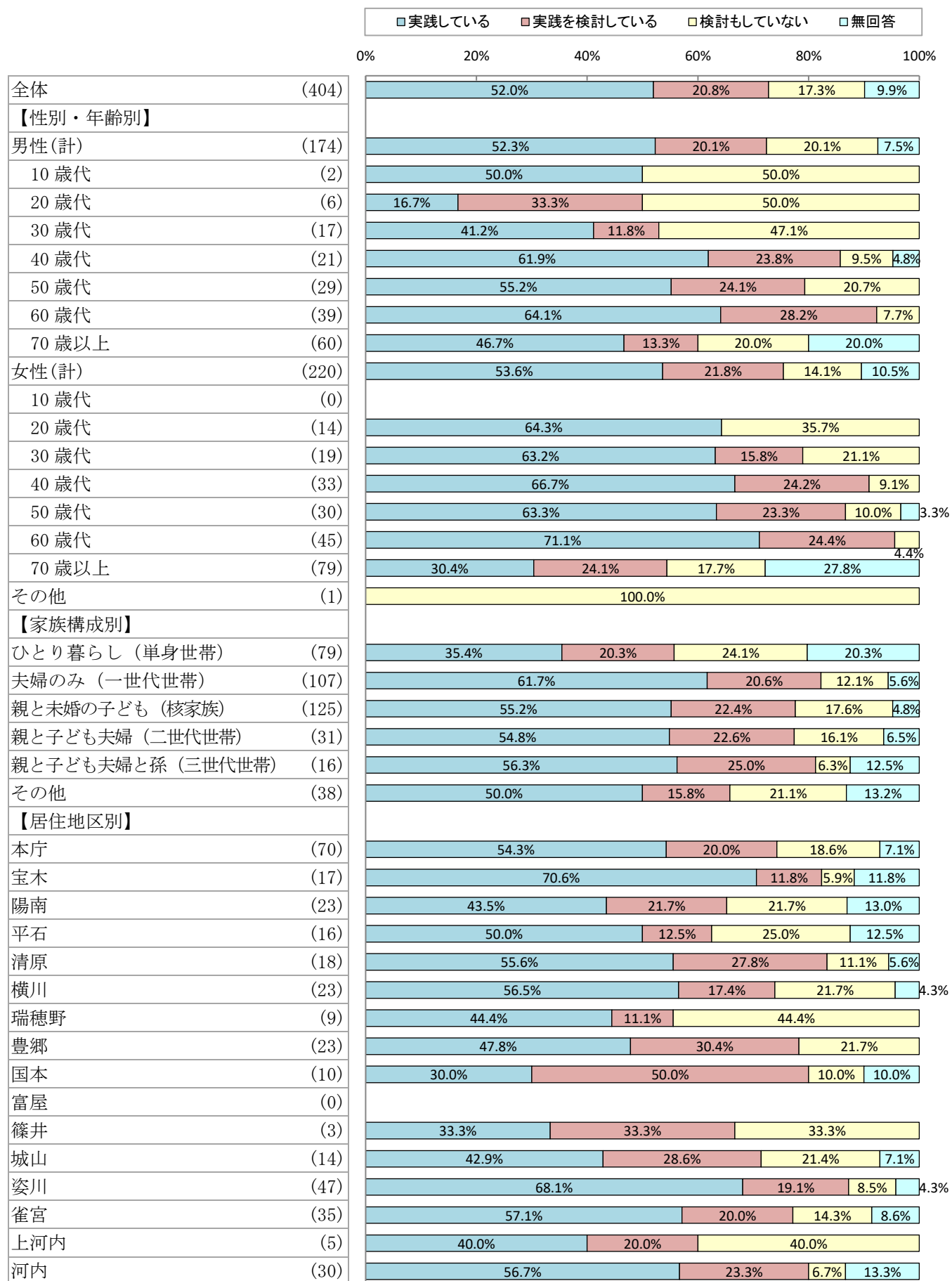
<図IV-7-11>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑥「自動車をEV（電気自動車）に乗り換え」



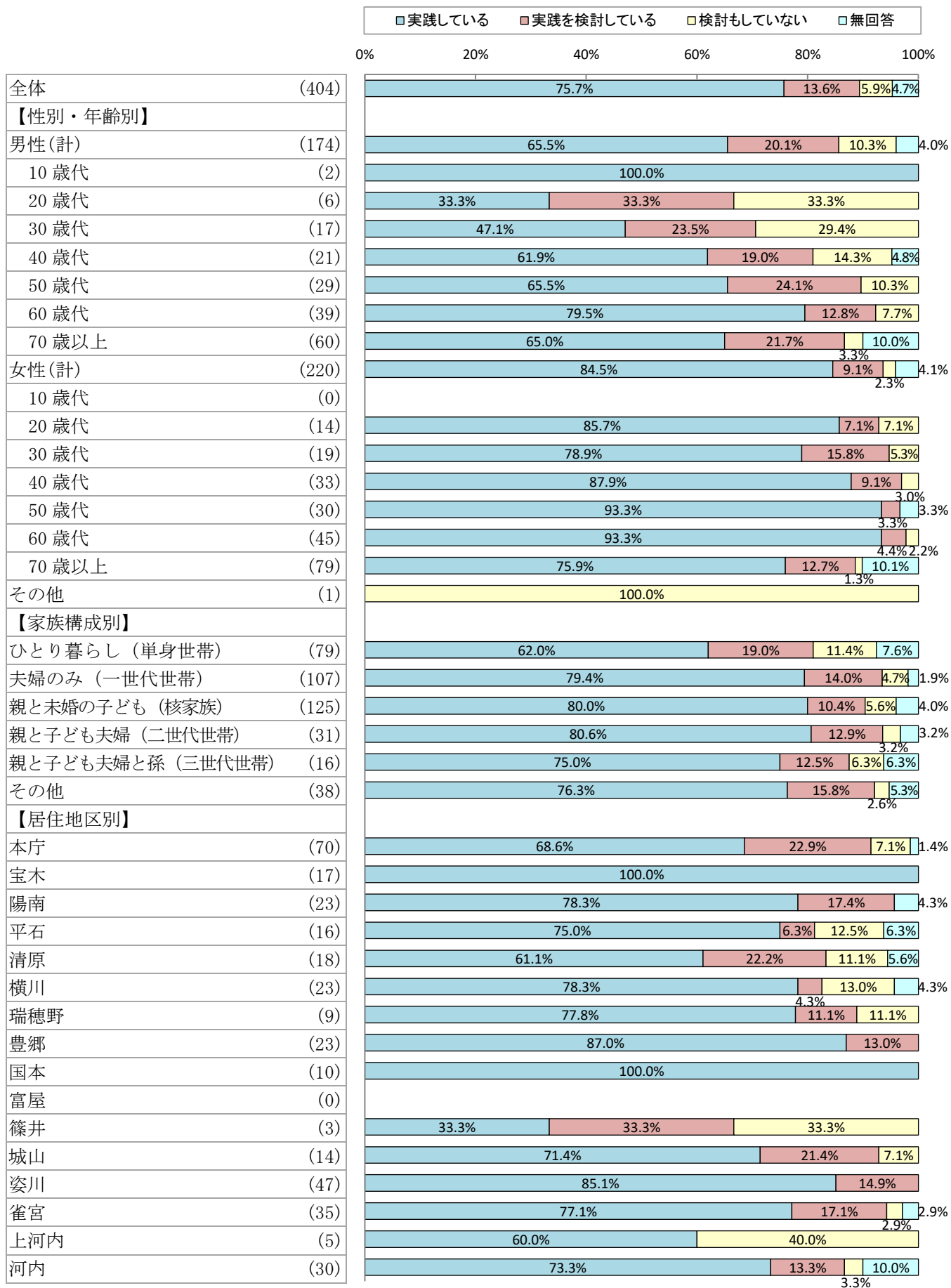
<図IV-7-12>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑦「運転の際のエコドライブ」



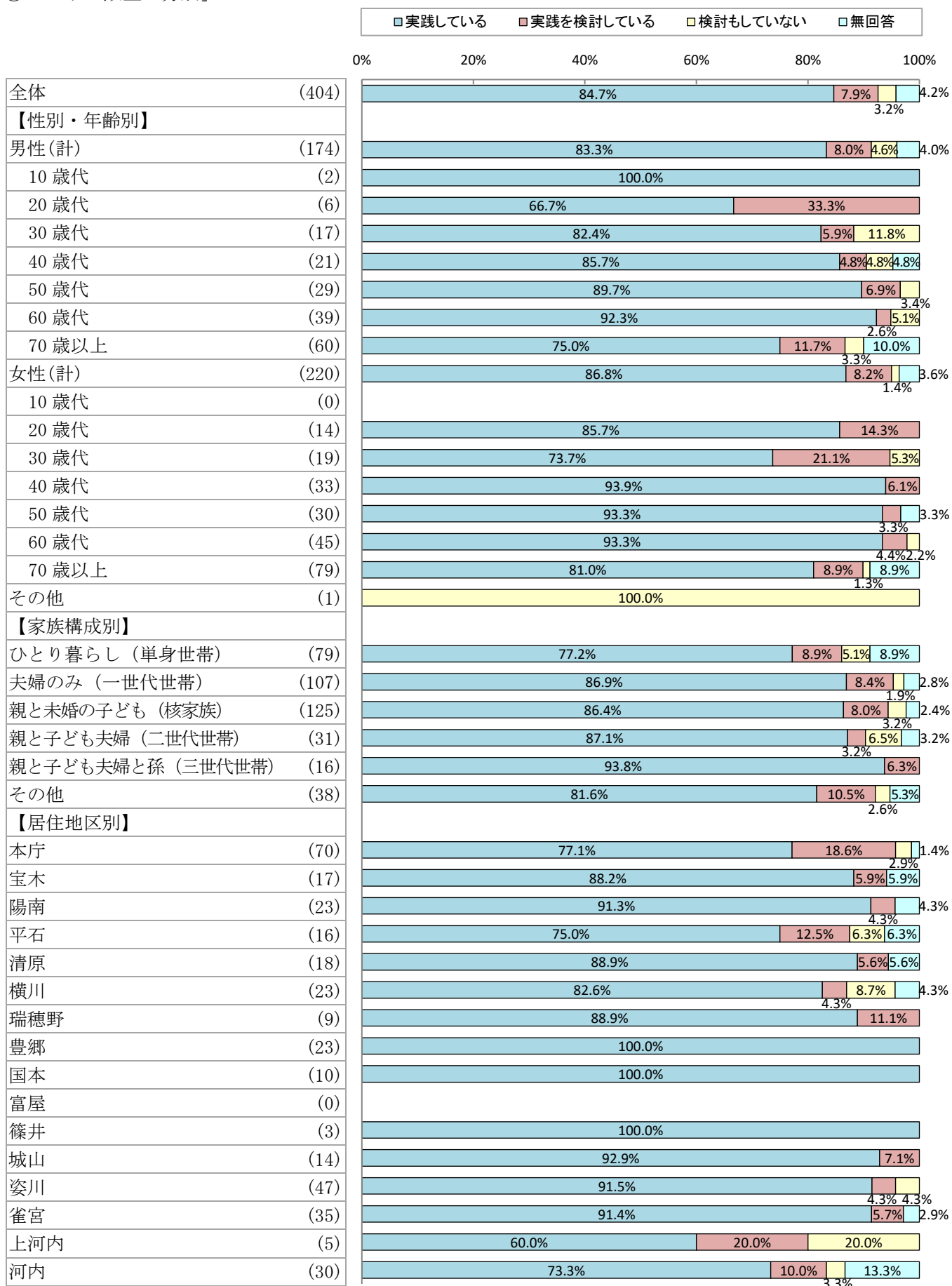
<図IV-7-13>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑧「レジ袋や使い捨てプラスチックの使用量削減」



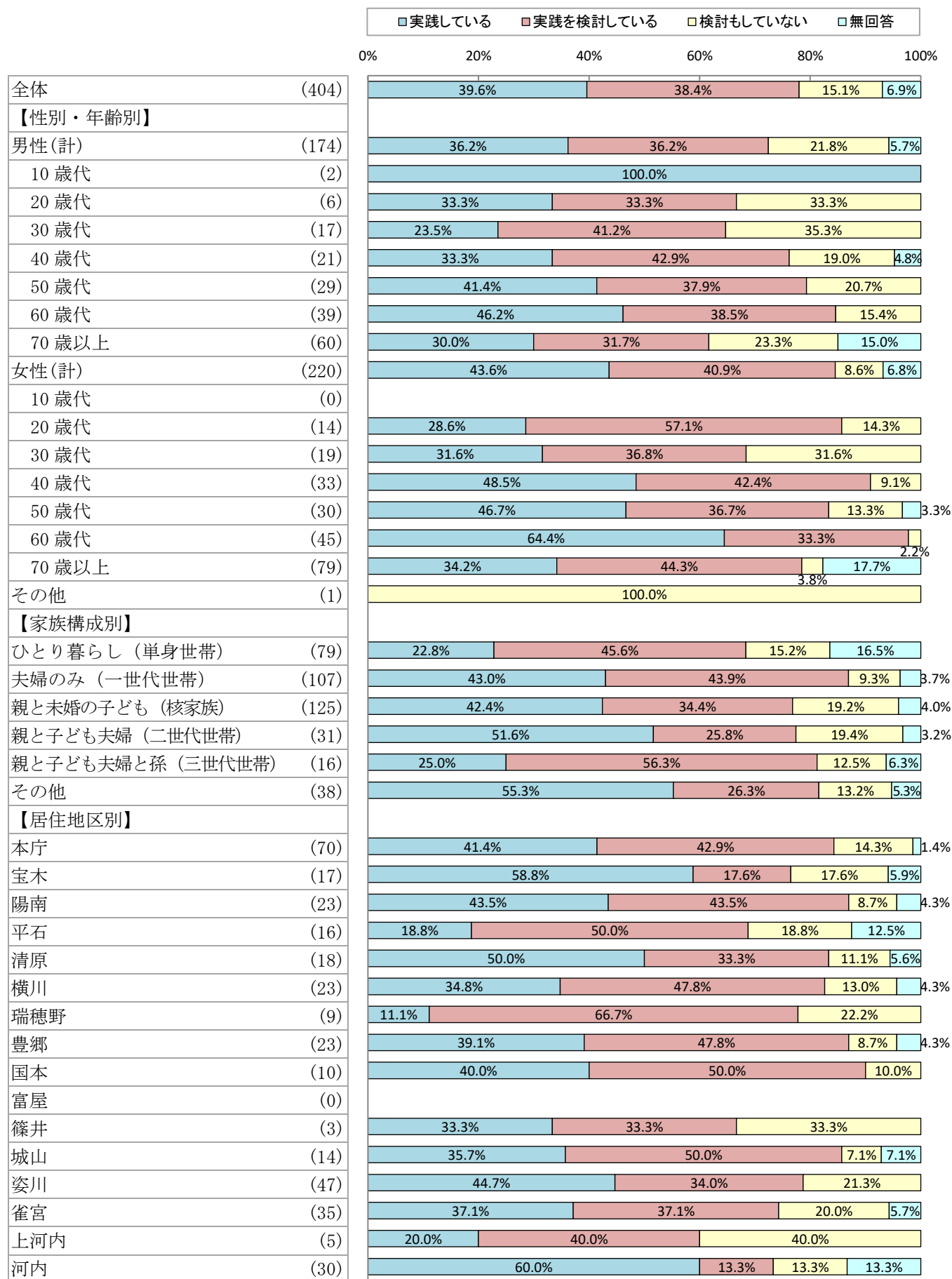
<図IV-7-14>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑨「ごみの減量と分別」



<図IV-7-15>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

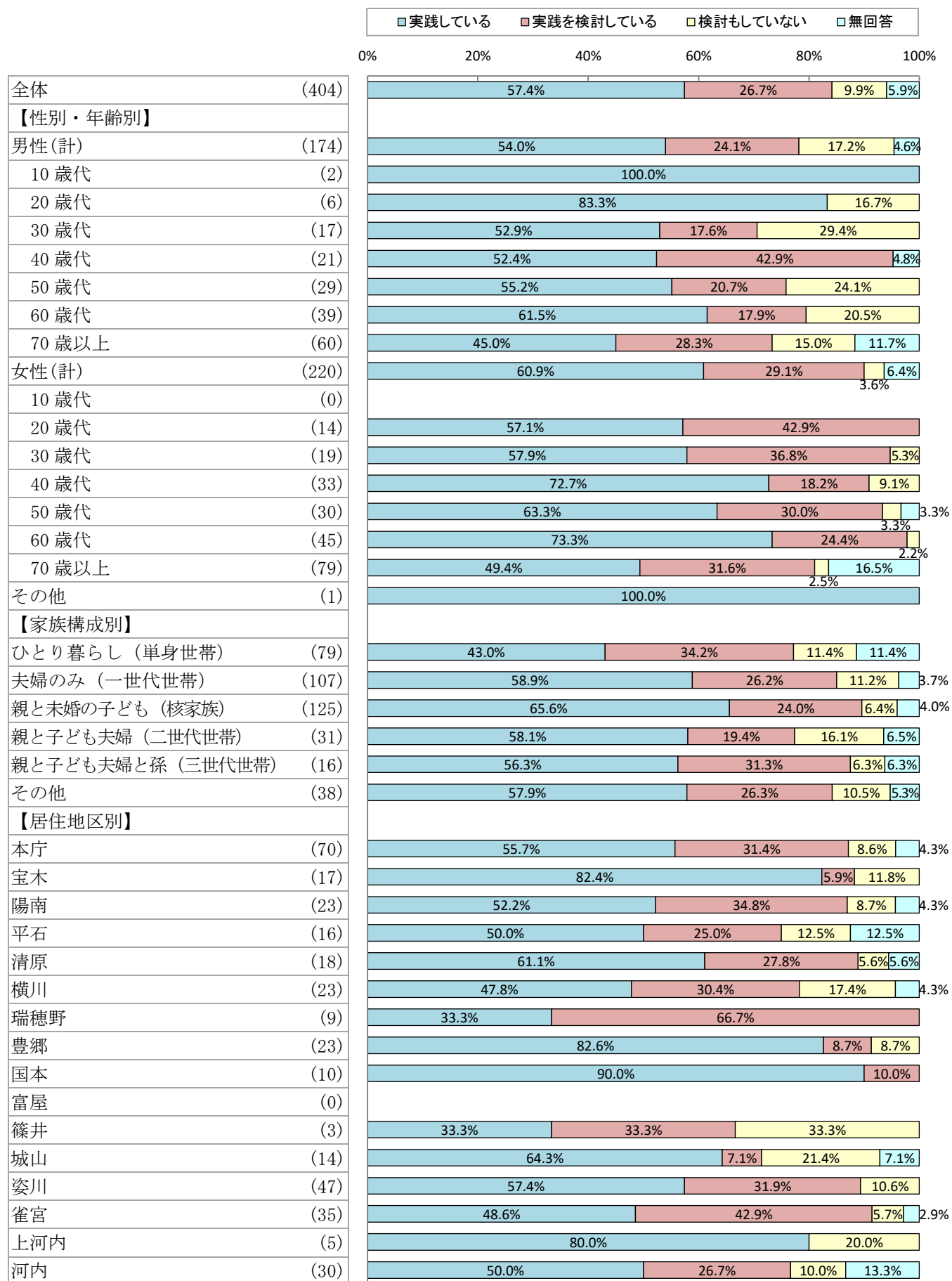
⑩「人や地球に優しいものを選んで購入」





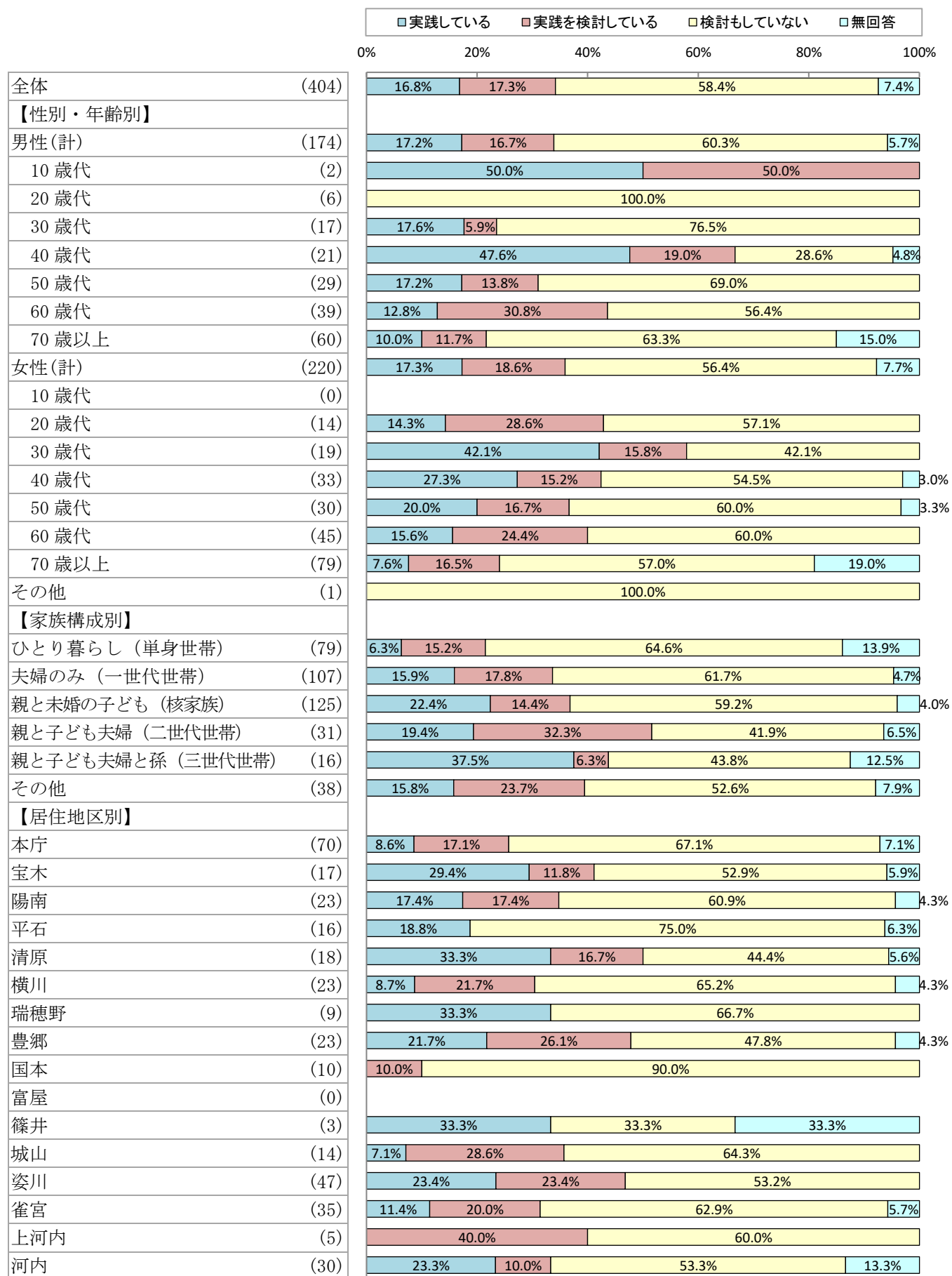
<図IV-7-16>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑪「地元の旬の食材を食べ（地産地消），残さず食べきる」



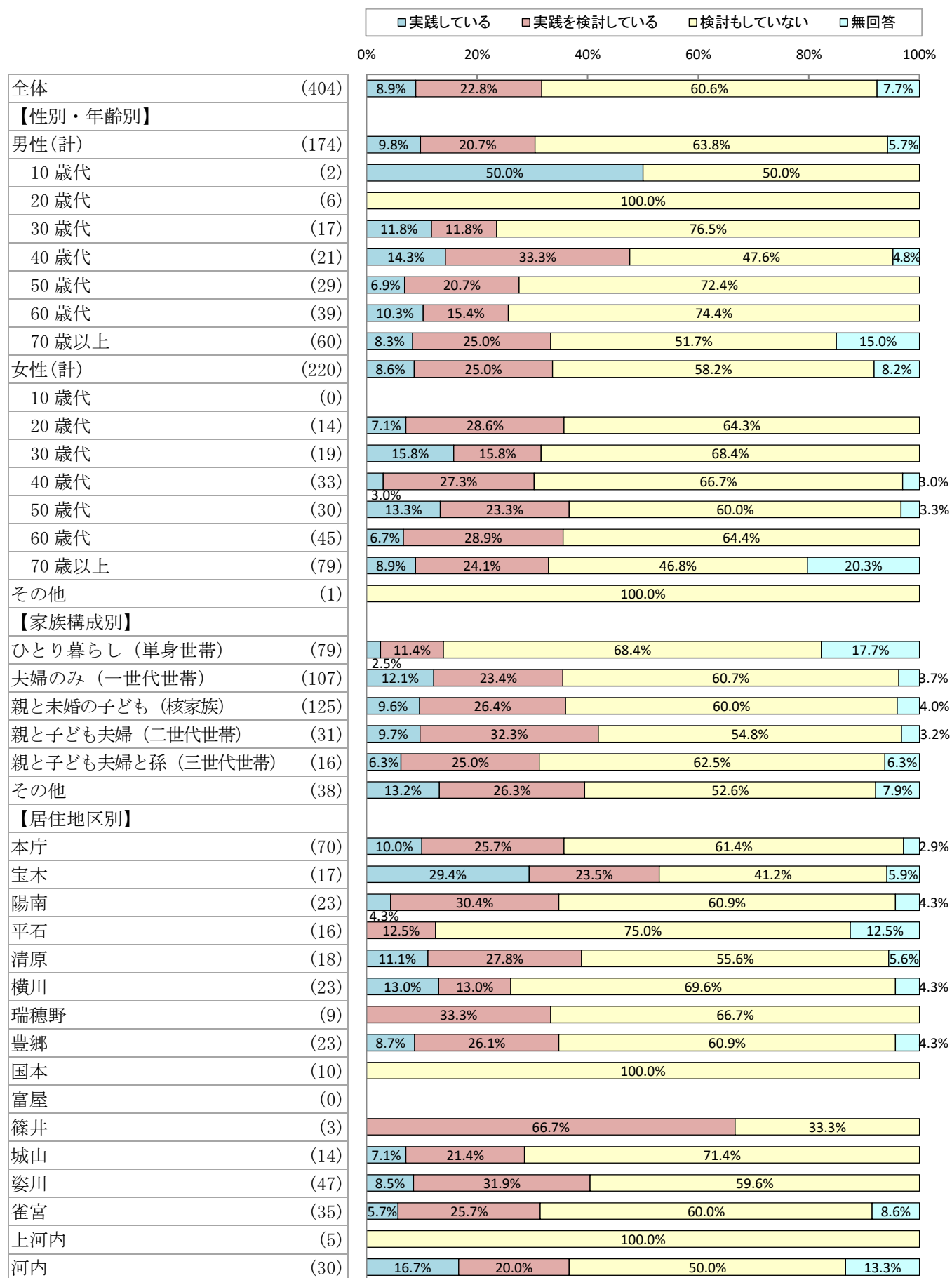
<図IV-7-17>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑫「太陽光発電などの再生可能エネルギー設備を設置」



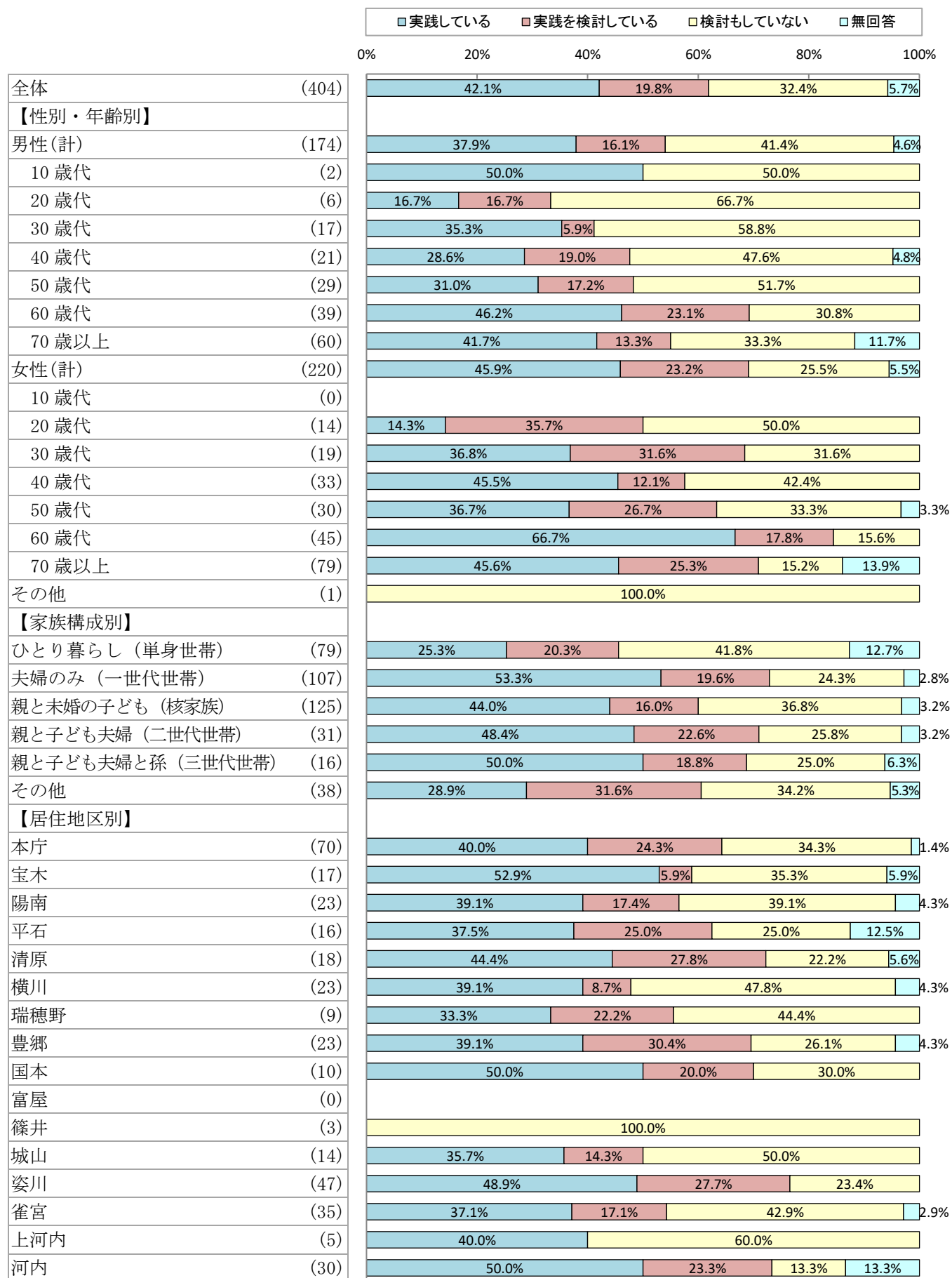
<図IV-7-18>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑬「小売り電気事業者の再エネメニューに切り替え」



<図IV-7-19>性別・年齢別／家族構成別／居住地区別

⑭「自宅に庭木やグリーンカーテンを取り入れる」

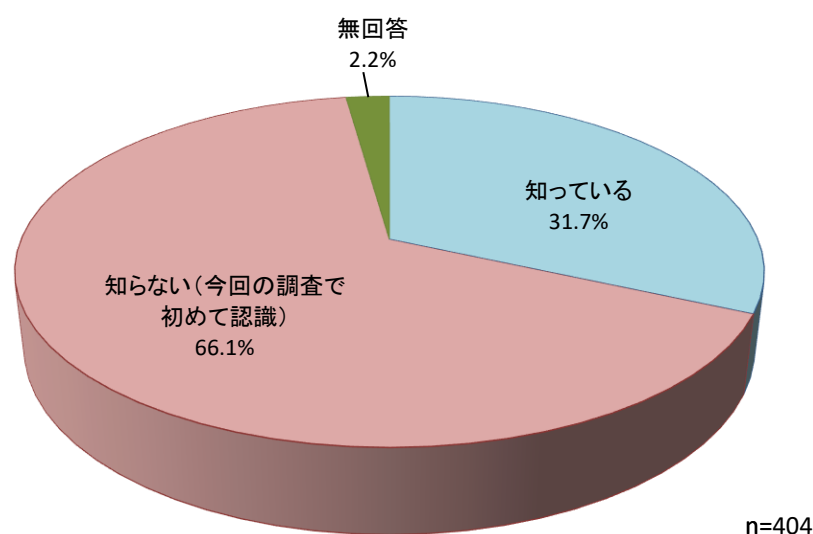


#### (4) ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度

◇ 「知らない（今回の調査で初めて認識）」が6割半ば

問28	ライトライン※は、家庭ごみの焼却等や家庭用太陽光による発電で生み出される地域由来の再生可能エネルギー100%で走行していること（ゼロカーボントランスポート）を知っていますか。 ※芳賀宇都宮LRTの愛称	(○は1つ)
		n=404
1	知っている	31.7%
2	知らない（今回の調査で初めて認識）	66.1%
	（無回答）	2.2%

<図IV-7-20>全体



ライトラインは、家庭ごみの焼却等や家庭用太陽光による発電で生み出される地域由来の再生可能エネルギー100%で走行していること（ゼロカーボントランスポート）を知っているかについては、「知らない（今回の調査で初めて認識）」が66.1%であった。一方、「知っている」は31.7%であった。（図IV-7-20）

<参考>

性別・年齢別でみると、「知らない（今回の調査で初めて認識）」は<その他>を除くと、<男性/10歳代>が100.0%、<女性/30歳代>が89.5%であった。「知っている」は<男性/60歳代>が51.3%で最も高く、次いで<女性/50歳代>が40.0%であった。（図IV-7-21）

職業別でみると、「知らない（今回の調査で初めて認識）」は<学生><農林水産業従事者>が100.0%、<自営業・サービス業従事者>が75.0%であった。「知っている」は<管理職>が66.7%、<事務・技術職>が37.8%であった。（図IV-7-21）

居住地域別でみると、「知らない（今回の調査で初めて認識）」は<篠井>が100.0%、<宝木>が82.4%であった。「知っている」は<国本>が50.0%、<瑞穂野>が44.4%であった。（図IV-7-21）

<図IV-7-21>性別・年齢別／職業別／居住地区別

